

作物情報(号外:大雨対策について)

発行日: 令和6年7月9日
発行: 仙北地域振興局農林部農業振興普及課

7月8～9日にかけての大雨により被害に遭われた方には心よりお見舞い申し上げます。今回の大雨により、浸水・冠水が発生したほ場では農作物の生育に影響がでることが懸念されます。身の安全確保を最優先にしながら、可能な限り農作物への被害を最小限にとどめるよう、適切な事後対策を行ってください。

1. 水稻

(1) 冠水期間1日以内の場合

ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を図ります。冠水期間が1日以内である場合は、減収程度は軽微である場合が多いものの、病害虫の発生が懸念されるため、ほ場を十分観察し、早期発見・早期防除を徹底します。

(2) 冠水期間3日以上の場合

① 水管理の徹底

冠水期間が数日間あったほ場の稲体は、水分を消耗しやすくなっています。

そのため、排水後は急激に乾燥することがあるので、田面の過度の乾燥に注意します。排水後は用水を入れ替え、その後は出穂期までは水を切らさない管理(飽水管理)とします。

② 病害虫の早期発見、早期防除の徹底

稲体消耗により、病害虫に対する抵抗力が低下しやすいので、ほ場を十分観察し、早期発見・早期防除を徹底してください。薬剤防除の際、液剤で防除する場合は、葉に付着した泥を落とすなどの対応後に、稲体全体に薬液がかかるように丁寧に散布します。

【参考】表1 水稻の生育ステージと減収率

被害時期	減 収 歩 合				被害状況
	1～2日	3～4日	5～7日	7日以上	
移植直後	—%	—%	5%	20%	異常伸長を示すが、その後の生育の回復力は大である。この時期は水温が低いので障害は少ない。
分けつ期	10	20	30	40	分けつの遅延・停止・枯死株の激増を示す。退水後も生長が停止している。穂数の減少をきたす。
幼穂形成期	20	30	60	70	幼穂の枯死によって穂数の減少をきたす。冠水期間が5日以上になると枝こう、えい花数の減少、奇形穂の発生をみる。穂ぞろいが不齊となる。
幼穂伸長期	20～60	50～90	80～100	100	出穂前7～10日がもっとも被害が大で、その前後は比較的軽い。幼穂の枯死、ねん実穂数・枝こう・えい花数の減少をきたす。
出穂期	20	50～60	50～70	70	ねん実歩合の低下をきたす。穂ぞろい期には被害は緩和される。
登熟期	—	20	50	60～90	出穂後、10～20日に被害が大きく、ねん実歩合の低下、くすみの増加をみる。
成熟期	0	10	20	20	冠水期間が長いと穂発芽を生ずる。品質が悪くなる。

(減収推定尺度(1948)農林省をもとに中村が加筆)

※浸水は葉先が水面上に出ている場合、冠水は葉先が完全に水中に没する場合を言う。

表2 葉いもち防除薬剤

薬剤名	農薬の種類	粉剤 D L	ゾル	フロアブル	散布量または 希釈倍数（散布液量）
ノンプラス	トリシクラゾール・ フェリムゾン剤	○		○	粉剤 D L：3～4 kg/10a ゾル・フロアブル： 1,000倍（100～ 150L/10a）
ビーム	トリシクラゾール剤	○	○		
ブラシン	フェリムゾン・フサ ライド剤	○		○	

（3）畦畔や用排水路等の点検・修繕について

①崩落畦畔等の補修

7月5日の水稻定点調査（あきたこまち、10地点）では、現在の生育ステージは分けつ期～幼穂形成期前となっています。イネにとってはこの後も水が必要な期間が続きます。畦畔や用排水路等に被害が無い確認するとともに、畦畔が崩れている場合は土嚢を積むなどの応急処置により、ほ場内へ入水できるようにします。

②可能な限り水を保持する

用排水路の損壊等で速やかな用水確保が困難な場合であっても、作溝や明渠を作ることではほ場内に均一に雨水がたまりやすくなることから、できるだけ多めに溝を切り、ほ場全体で水を保持するよう管理します。

2. 大豆

大豆は浸水、冠水に弱く、冠水数時間で減収率が高まる可能性があるため、水稻より一層の早めの排水を行います。排水後も安心することなく、地下水位の低下を図ってください。また、土壌に酸素を供給することで根の活力を回復させ、生育が回復するよう管理します。

（1）中耕培土及び除草対策等のほ場管理

①排水後ほぼ健全な葉色である場合

冠水期間が半日程度で、排水後に葉が黄化していない場合は、土壌の固結や過湿状態を改善するため、作業可能な土壌水分になったら速やかに中耕培土を行い、通気、透水性の確保に努めます。その際は、株元まで耕起幅を広げず、断根を少なくするようにします。また、雑草が繁茂していれば、より繁茂する可能性があるため、畦間除草をあわせて行ってください。

排水後に葉がやや黄化してくるようであれば、速効性肥料を窒素成分で2～3 kg/10aを追肥した上で中耕培土を行い、生育を回復させます。

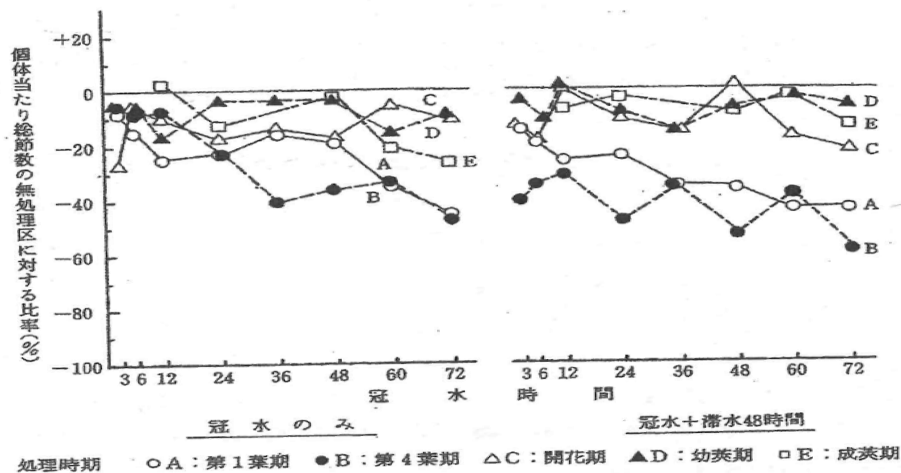
②排水後に葉色が黄化している場合

排水後に葉が黄化してきた場合は、ほ場を速やかに乾燥させ、直ちに中耕培土を行います。大豆の生育量が小さければより雑草が繁茂し、生育を抑制する可能性があるため、除草対策を併せて実施します。その際、速効性肥料を窒素成分で4～6kg/10a追肥してください。

③排水対策について

明渠や排水溝の点検・補修、溝と溝の接続や排水口への連結を行うなど、今後も速やかに排水が行われるように、もう一度排水対策を実施します。

【参考】 大豆の冠水・浸水時間と被害歩合(減収率)



※管内の生育は本葉1～2葉期(6月末時点)。